

試験研究成果普及情報

部門	養豚	対象	普及
課題名：ランドレース種の新しい系統豚「ボウソウL3」の性能			
<p>[要約] 繁殖性と肢蹄の強健性を重点に5世代に渡り改良を行った系統豚「ボウソウL3」の性能は、初産の平均産子数で約11頭、後肢内側蹄と外側蹄の大きさが揃いバランスが良い肢蹄である。</p>			
キーワード（専門区分）	育種 （フリーキーワード）	豚	（研究対象） 家畜類一豚 ランドレース種 系統豚 産子数 肢蹄
実施機関名	（主査）畜産総合研究センター 生産技術部 養豚養鶏研究室 （協力機関） （実施期間）1998～2004年度		

[目的及び背景]

平成9年度に系統豚「ボウソウL2」が完成し、県内養豚農家に発育が良く産肉性に優れた種豚の供給を行っている。しかし、養豚情勢が厳しい状況において、さらなる高能力な種豚は、肉豚の生産性向上に不可欠である。また、BLUP法アニマルモデルを利用することにより遺伝率の低い繁殖形質などの改良も可能となり、肢蹄の強健性については、当センターの研究結果から後肢内外蹄比率による選抜が有効と認められた。そこで今回は、雌系種豚に求められる産子数と、連産性に関わる肢蹄の強健性に優れたランドレース種の系統造成を行う。

[成果内容]

- 産子数については、世代が進むにつれて上昇し、第5世代の初産の産子数は11.2頭となった。また、育種価も世代が進むにつれて上昇した（図1）。
- 肢蹄の強健性については、後肢内外蹄比率（後肢の内側蹄の接地面積を外側蹄の接地面積で割った値）が65%未満の豚を独立淘汰により選抜した結果、第5世代までには雌雄ともに65%未満のバランスの悪い個体はいなくなった。なお、平均内外蹄比率は世代が進むにつれて上昇し、雌雄ともに第4世代で80%以上となった（図2）。
- 産肉成績（去勢豚）については、一日平均増体量で世代が進むに連れて上昇し、第5世代で947.1g（30～105kg）、105kg到達日齢は、149.6日となった。と体（105kg）の背脂肪の（セ）の値は、世代が進むに連れて上昇傾向を示し、第5世代で2.0cmとなった（図3）。ロース断面積（肩から尾根部までの長さの尾根部から65%部位）は世代による変化は認められず、いずれの世代でも約34cm²を示した。

[留意事項]

[普及対象地域]

県内全域

[行政上の措置]

特になし

[普及状況]

[成果の概要]

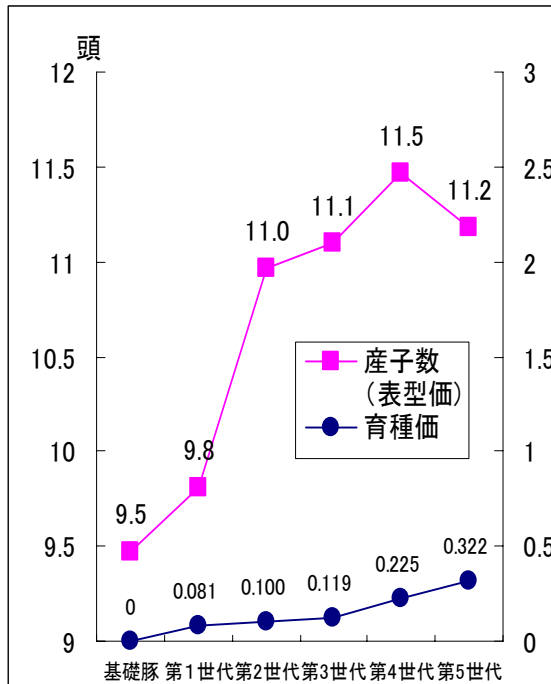


図1 世代別産子数、育種価の推移

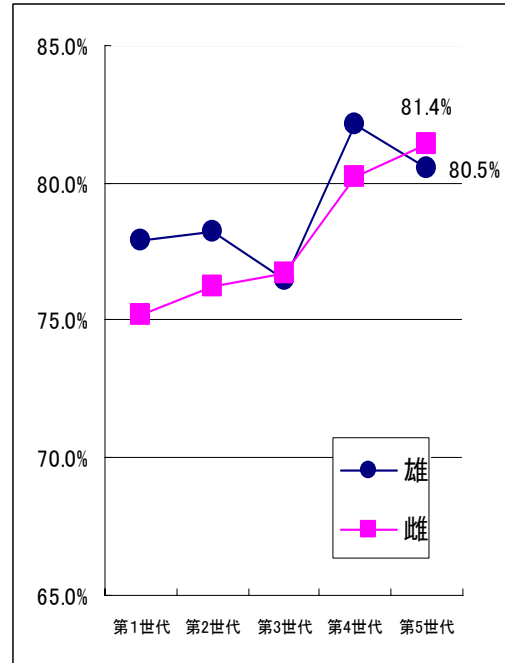
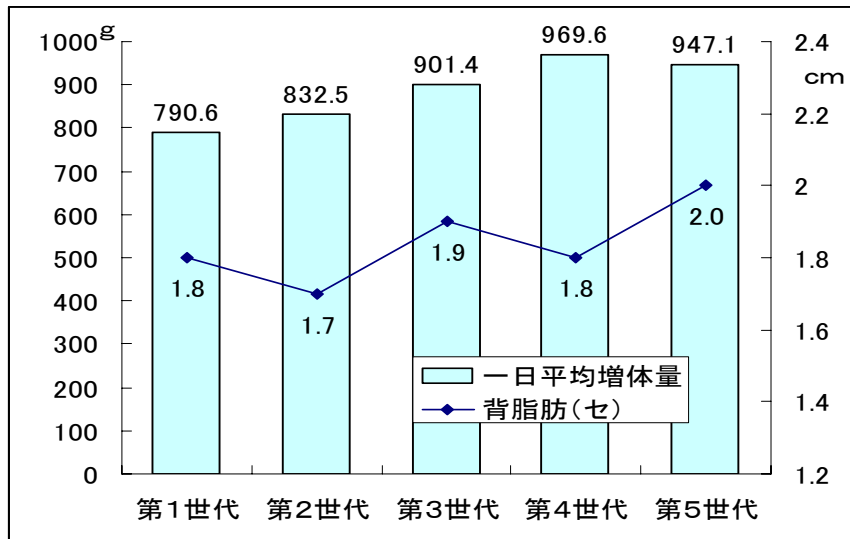


図2 世代別後肢内外蹄比率の推移



注) 一日平均増体量：30kg から 105kg、背脂肪：と体の (セ) (105kg 時)

図3 世代別一日平均増体量と背脂肪 (セ) の推移 (調査豚 (去勢))

[発表及び関連文献]

平成 16 年度試験研究成果発表会資料 (2005)

平成 15 年度試験研究成果発表会資料 (2004)

[その他]